

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化スポーツ部 国際文化交流課	令和4年度
記入団体名	NPO法人日本語教育ネットワーク	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	日本語ボランティア育成講座		
協働事業の概要	外国籍市民を対象とする地域の日本語教室において、日本語を教えるボランティアとして活躍できる人材を育成するために「日本語ボランティア育成講座（全10回）」を開催する。 【開催場所】 クラッセ川越5階 国際交流センター 【日 程】 9月7日、14日、21日、28日 10月5日、12日、19日、26日、 11月2日、11月9日 【時 間】 午後6時30分～8時30分 【受講人数】 13名（応募者多数のため、抽選を実施）		
協働事業の決算額	434,671円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000 円
事業の実施期間	令和4年4月10日～令和5年2月20日（講座：9月7日～11月9日）		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

日本語教育ネットワークと当課による本協働事業も、今回で3期目（3年目）を迎えました。今回は、“「違う」を前提に地域で共に生きる”との基本コンセプトに基づき、講座内容に日本語教育に関する理論と実践をバランスよく配置することで、外国籍市民への有効な支援のあり方を見据えながら、いかに受講生の意欲と関心を引き出していくかに力点を置いて開催しました。

その結果、想定を上回る数の申込みや問合せがあり、講座終了後のアンケート調査からも、高い満足度が確認されています。

このような成果が得られたのは、ひとえに、協働事業団体である日本語教育ネットワークの皆さんが、日々の日本語教室の運営を通じて得た発見や気づきを、本講座の企画内容にしっかりと還元させたとともに、受講生一人ひとりに対して、きめ細やかなサポートを提供したこと等に裏付けられていると感じています。また、1期目、2期目の開催を通じて得た知見を活かし切ることができたことも、大きな要因だと思料いたします。

外国籍市民に対する言語的支援や生活サポートを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大や、国による外国人労働者の受入れ拡大等の事情を受けて、加速度的に変化し続けています。本市（当課）としては、今後も、様々な関係機関との協働を通じて、より良い支援（サポート）のあり方を検討するとともに、それらの取組みを支える人材の拡大に繋げてまいります。

【市民活動団体等】

今回の講座は日本社会に在住する外国籍住民の身分や資格の変化に伴い、変わらざるを得ない日本語支援の方法を我々が学習しながらの育成講座であった。講師側の「伝えたいこと」が「伝わる」ために異文化理解が前提となることや、言語が社会と切り離せないという事例の理解を重視した。

模擬授業も教授法より、目の前の一人の外国籍住民に伝わる話し方に焦点を置いてグループで評価しあった。全体として、言語の構造にさける時間は少なかったものの、川越市との協働事業のコンセプト「違いを前提にともに生きる」は受講生に伝わったと思われる。これから、さらに増加する外国籍住民が地域、仕事、学校などで様々なチャレンジができ、日本社会で共生できるように「日本語ボランティア」として支援できれば幸いである。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	8	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・非常に工夫された事業。
- ・今後の発展を祈る。
- ・今後、外国人の不就学児童問題にも目を向けようとする場合、行政との連携は確実に重要なものとなるはずなので、さらに両者の協働のあり方を深めてください。とりわけ、市にとって喫緊の課題でもあるので、積極的にがんばってもらえればと思います。
- ・外国籍市民への日本語支援のかたちも様々あると思いますが、日本社会で共生できるようにすることも支援のひとつではありますが、外国籍のその国の文化や生き方を学ぶとともに日本での地域での文化や生き方、双方を理解することがベースにあると思います。その為には日本での生活様式も伝えながらの日本語支援もひとつと考えます。

協働事業名称 日本語ボランティア育成講座

【事業に関するコメント】

- 外国人労働者の受け入れが増えている今、ボランティア団体だけではすまない情勢だ。もっと組織的に市と民間で考えてもらいたい。国の援助も必要。
- 一定程度の成果が得られたことは喜ばしいことです。
- 協働事業としてはこれで終了となりますが、この事業で得られた知見を生かして、今後の展望で記述している事柄を実現させてください。
- 市民の関心が高い事業のようなので、来年度は委託として行うことを担当課は検討すべきではないか。3年間での実績はすばらしい。
- 交流から地域でくらす仲間として外国人と共生するステージがすぐ目の前にある。くらし全般の支援も必要となる。NPOの手に負えない課題ではないか。共生事業としての予算が必要な時代ではないか。
- 日本社会に在住する外国籍の方が色々な面で苦労されている。今回の日本語支援は生活支援の認識から「学習者が日本で何が出来るようになるか」をテーマにされた事は大変良かったと考えます。引き続き日本社会で共生出来るよう支援していただきたいと思います。
- 過去からの活動の成果が徐々に出てきている様です。講座参加をきっかけに、実際にボランティア活動する人が生まれる事業は素晴らしいと思います。
- 大変でしょうが、これからも数を増やす事や共生に向けた新たな取組みを期待します。
- 多言語化、外様化する環境にある中で、心細い外国人の方々の支えの場として活用できているのではないか。
- より多くの方がアクセスできるような工夫が必要ではないか。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	産業観光部 農政課	令和4年度
記入団体名	川越サツマイモ商品振興会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	川越いも作り270周年記念事業		
協働事業の概要	事業の概要は、産業観光振興の一助として、一般市民向けに、川越いもの歴史や文化を理解してもらうための「川越いも文化学セミナー」（3回：10月～12月）の開催と、「川越いも歴史文化学」記念冊子の発行である。		
協働事業の決算額	55,684円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	24,000 円
事業の実施期間	令和4年4月10日 ～ 令和5年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	2	2.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	3	3.5

合計点数	24 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

川越といえば、サツマイモのイメージが定着しているが、実際には生産農家の数はそれほど多くはない。また、伝統的な川越いもである「紅赤」に関しては、現状2名しか生産していない。川越いもの文化を振興し、後世に残すためには、このようなイベントを継続的に実施していく必要があると考えられる。

記念冊子については、編集作業に時間がかかっているとのことなので、所管課としては、進捗状況を確認しつつ、完成後はPRや配布に協力していきたい。

【市民活動団体等】

- ・記念冊子「川越いも歴史文化学」の編集発行作業については、発行後、研究者の文献資料や大学生などの学術的な卒業論文等にも利用される可能性が充分あるため、多くの資料を読み、内容については学術的にも責任ある記述にすべきと考えている。また、一般人にも理解をしてもらうため、博物館の図録等と同じく、古い史料「細密画」「古写真」なども探して、画像等を多く掲載したいと考えている。
- そのため、古い画像ひとつを探すのに多くの時間がかかっている。
- ・調査を進めていくと、新たな疑問点や、明らかにしなければならない点が数々できている。古書等も探し出して読解し、不明点も明らかにしていくのに時間がかかっている。
- ・執筆作業の歩みは遅いが、いずれにしても、納得いく内容で発行したいと考えている。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	0	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	C
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	6	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	1	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・市という領域とそれを超えた連携。
- ・大きな課題としては団体と市の間でどの程度「目的」を共有できていたのかに疑問が残る点である。何をやろうとしているのかは分かるが、最終的なゴールの設定が共有されていないように感じられた。例えば冊子を作ることがゴールなのか、川越いものブランド化とその周知が目的なのか分かりづらい点といったものが挙げられる。
- ・川越いも作り270周年記念冊子編集が昨年から今年度も遅れ、今年の10月頃の発行になるとは、いかがなものか。
- ・最終的に会の自己責任で発行すると書いてあるが、具体的に説明して欲しい。
- ・当団体は市制100周年記念事業を行っているが、協働事業との明確な区切りを知りたい。
- ・川越と言えば芋というイメージがあり、観光の要でもある。しかしながらこの事業には、相当の心構えと人手が必要なようである。長い目でみたい。

協働事業名称 川越いも作り270周年記念事業

【事業に関するコメント】

- ・ 記念冊子「川越いも歴史文化学」は、現時点で考えると3年間で成果品が出来上がるものではなかったのではないか。協働事業の内容に入れるべきではなかったと判断される。関係者に猛省をうながしたい。
- ・ 芋文化セミナー3回は、生産現場見学など興味深い内容であった。
- ・ 冊子の発行は今までにないもの、資料、学術的な内容にするとのこと。発行を楽しみにしています。
- ・ 申請時にどの程度の規模の冊子を作るのかわかっていれば良かった。今年度内に完成できないのは残念であった。
- ・ 川越の産業観光振興のためには、民間と行政が継続的な事業展開が必要。農業センターまつり2022に、お芋の天ぷらを市民に配り、PR出来たと思います。今後とも「川越芋」を市民へ伝えていただきたい。
- ・ 記念冊子が未完だが、冊子が活用されるレベルを再考した方が実現可能性が高いのでは。（完成された学術誌を目指すのはハードルが高いと考えます。）
- ・ 270周年記念事業なので、そもそもタイミングとして発刊できないこと自体が大きな問題ではないか。時間管理できていないのは市民団体のみならず、行政の問題では。旬を過ぎた記念冊子は意味合いが異なってしまう。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	教育総務部 教育財務課・地域教育支援課
記入団体名	川越igoまち倶楽部

令和4年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業		
協働事業の概要	川越igoまち倶楽部が主体となり、市内32の学童保育室と放課後子供教室を対象として行う囲碁の普及事業で、伝統文化である囲碁に気軽に親しめるように、楽しく学べる環境を整備するもの。囲碁の習得のみならず、囲碁が持つ力（思考力・集中力・忍耐力等）を活用し、子どもの人間力育成と多世代交流による安心できる居場所づくりを目指す。 ①子どもの特性を踏まえた講師用「囲碁教え方ガイド」作成 ②キャラバン隊の講師を対象とする教え方勉強会実施 ③学童保育支援員等を対象とした囲碁勉強会実施 ④学童保育・放課後子供教室への囲碁指導キャラバン隊派遣		
協働事業の決算額	264,089円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	111,000円
事業の実施期間	令和4年6月2日 ~ 令和5年2月28日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかつた（2点） ・全くできなかつた（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4.5	4	4.25
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4.5	5	4.75
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4.5	5	4.75
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4.5	5	4.75
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4.5	5	4.75

合計点数	32.25 点
------	---------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

（教育財務課）

川越igoまち倶楽部さんの精力的な活動によって、夏季休業中及び冬季休業中における囲碁指導キャラバン隊の派遣を実施することができました。

実際に実施した学童保育室からは、キャラバン隊の派遣を長期休業中の恒例行事にしてもらえる、遊びとして定着し、子どもたちも楽しみになると思う等の意見も出ています。

引き続き協力して事業を行っていきたいと考えております。

（地域教育支援課）

川越igoまち倶楽部の他にも、もし同様に協力関係を築けるような団体があれば、今後も協働事業を活用したい。

【市民活動団体等】

予想以上の成果をあげられたものの、課題も見えてきたので、所管課と十分な検証・調整を行うとともに、現場の声にも耳を傾け、それを踏まえて次年度以降、より良い形で実施できるよう努めていきたい。

協働事業を実施するにあたっては、所管課とのコミュニケーション・情報共有が大切であることを実感した。

とくに本事業の推進においては、囲碁に目覚めた子どもたちの気持ちと、キャラバン隊を温かく迎え入れてくださる支援員の気持ちをすくい上げ、併せて、キャラバン隊の負担軽減などにも配慮。

事業の根幹に据えたコンセプト「囲碁を通じ、子どもたちの未来を拓く！」の視点を関係者と共有し、その可能性を追求していきたいと考える。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	8	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・将棋の流行は子どもたちの学習の励みであり、日本の誇りである。
- ・自ら事業の「検証」を行っている点については評価したい。また、手探りながらも事業を改善していこうとする意図が感じられる。
- ・実施までの間にガイドの作成から教え方勉強会まで計画的に運用した結果なのではないか。
- ・放課後子ども教室や学童保育などが文科省から出され、まらコミュニティスクールなど様々な事が地域に投げかけられています。この様な活動はいまの学校現場に合致したものであり、大変有効です。
- ・参加校と参加者が多く、また満足度が高いのは素晴らしい。

協働事業名称 がくどうigoサポート&キャラバン事業

【事業に関するコメント】

- ・継続するには多々改善が必要と思いますが、家庭の親も巻き込んで続けて欲しいと思います。また、教える方（キャラバン）や受け入れ（支援室）についてもお互いに囲碁の教え方も準備されていて理解度も進んでいる点も良い。支援員への教育も更に続けて子供たちに喜んでもらいたい。
- ・協働事業の初年度としては十二分の成果が得られた事は喜ばしいことです。
- ・今回の知見を参考に更なる成果が得られることを期待します。
- ・キャラバン隊派遣など、様々な工夫をして導入したのがすばらしい。（支援員の負担を軽くするなど）
- ・夏休みの恒例行事として定着して欲しいとのアンケートの声があるのはすばらしい。
- ・コロナ禍の中で室内で過ごせる囲碁の可能性、子供の体験にも役立つと思う。ぜひ継続して欲しい。
- ・囲碁指導キャラバン隊の活動は、すばらしいと思います。伝統文化である囲碁に気軽に親しめ（思考力、集中力、忍耐力）現在の子供に欠ける面を囲碁を活用する事で達成出来ると考えます。今後とも是非続けてもらいたい。
- ・多数にわたる子供たちが参加したイベントになり、支援員さんも大変だったと思いますが、よい成果だと思います。
- ・子供的人格形成や興味形成に役立つ事は間違いなく、更に上達を目指す人々のフォローが出来ればと期待します。
- ・学童に限らず、広く小学生に教えられるようになると良いと思いました。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	建設部 河川課	令和4年度
記入団体名	川越的場八景蟹ヶ淵再生する会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ淵再生事業		
協働事業の概要	川越市大字的場地内の蟹ヶ淵において、地域の環境保全と憩いの空間を創出するため、蟹ヶ淵の再生に関する活動を行う。 ○4月から3月まで定期的の下草の除草作業等を実施。 ○自生した樹木に絡みついた藤蔓を引きおろして、藤棚を整備。 ○サツマイモの植え付け及び収穫 憩いの空間創出のための藤棚を設置。淵東側の水路両岸部を除草し、市有地部分の遊歩道化を進める。		
協働事業の決算額	6,922円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	3,000 円
事業の実施期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	4	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	3	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	3	3

合計点数	25 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度については、清掃活動等により発生した投棄物の処理で市が関わることが多々ありましたが、提案団体が定期的に清掃活動等の維持管理を行っていただくことで、草刈業務に係る財政負担の軽減や周辺の不法投棄の減少に繋がると考えています。
また、継続的に事業が実施されることで、地域の方々へ憩いの場を提供することに大きく寄与する事業であると考えます。
今後は、今年度の課題等を整理し協働事業として継続できるよう、双方で検討していきたいと考えます。

【市民活動団体等】

当該地の不法投棄の除去、雑草、篠、蔓類の除去は、一定程度進展した。市の理解を得ながら、今後は活動参加者の増加が課題である。
なお、清掃活動実施日を月1回と定例化（毎月第2土曜日）とした。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	1	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。
B	7	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。
C	2	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。
		B

【事業に関するコメント】

- ・一朝一夕で成果が出る類のものではないが、だからこそ段階を経て取り組むべき課題のように思える。最終的な目標を大きく持つことは重要だが、一気に進めようとしても限界がある。ならばなおのこと、担当課との連携を密にして事業を進めるべきであるように思われる。
- ・活動自体は理解できるが、担当課ともう少し協働した方が良いと思う。
- ・コミュニティスクールではなく学校放課後教室ではないのか。真ん中に水路があると聞いているが、児童が当地に入るにあたって対策はどのようなのか。
- ・少し時間のかかる事業かと思う。また、参加人数が少ないので改善できるか。
- ・（評価シートで）1～3、4～5について団体の感想がないのは不満です。
- ・学校と清掃活動ができれば良いが、かなり難しいのでは。学童はどうか。

協働事業名称 川越的場八景蟹ヶ淵再生事業

【事業に関するコメント】

- ・初年度としてはまずまずの成果ということなのか。（団体側の自己評価の理由欄が「特になし」はちょっと気になる。）
- ・次年度は今年度成果を踏まえ、担当課と十二分に協議し、協働事業としての成果を出すことを期待します。
- ・活動参加者の募集に河川課が広報に載せて募るなど協力したらどうか。
- ・環境ネットなどとコラボするのも検討して欲しい。
- ・月1回定例化したこと、市のクリーンパートナーになったことはすばらしい。
- ・河川課はクリーンパートナー制度をもっとPRしたらどうか。
- ・団体で定期的に清掃活動を実施されることで環境美化活動につながり、市民の憩いの場になるよう活動を続けていただきたいと思います。
- ・本来市有地の整備は行政の担当であると思います。市民の活動に依存する事は残念な事でしたが、地元の方々の熱意に敬意を表します。
- ・環境を保全するすばらしい取組みだと思います。市民の活動参加者が増えるとよりよい活動になると思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	防災危機管理室	令和4年度
記入団体名	株式会社小江戸FM	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災		
協働事業の概要	<p>ラジオの特性を活かし、防災専門家によるラジオ講座やオシャレ防災グッズの紹介、非常食レシピの紹介など生活密着型の防災番組を放送することにより、楽しみながら幅広い年齢層の防災意識を高める。</p> <p>事業の実施日時・内容 令和4年9月：アクティブ防災専門家を招いた防災講座番組公開収録（クレアパークで実施） 令和4年11月：地域のアクティブ防災ラジオ座談会（ラジオ放送） 令和4年12月：おすすめ防災グッズ、防災食（ラジオ放送） 令和5年1月：みんなの防災座談会（ラジオ放送）</p>		
協働事業の決算額	404,800円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和4年5月～令和5年2月		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	28.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

令和4年9月にクリアパークで実施されたアクティブ防災講座公開収録では、こどもも体験できるコーナーも併設されていることもあり、事前に市内小中学校全クラスにチラシを配布することで、当日も親子連れで参加する方が多く見られた。また、防災グッズ・非常食の展示や防災ワークショップでの体験も行われており、11・12・1月に行われたラジオ放送も含め、今回の協同事業をきっかけに防災意識の向上を図ることやラジオでの情報の取得等について周知することができたと思う。

【市民活動団体等】

クリアパークで開催したイベント「あそぼうさい！まなぼうさい！」の参加人数が心配でしたが、かなりの親子でのご参加があり、防災時のラジオ放送パーソナリティ体験やワークショップ、バケツ火消しリレーなど、イベントの名前の通り、楽しみながら防災が学べたのではないかと思います。親子で参加することで親子間での防災の意識が少し高まったのではないかと思います。今回の経験を活かし、次回防災の意識もっとを高めていただき、ラジオ川越が防災にも力を入れているコミュニティFMと認識していただけるよう様々な方々と協力しあって活動を盛り上げていければと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 B
B	7	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・川越の特産として子供にも、将来にも、また外にも発信して今後も育ててほしい。
- ・ラジオを通じた防災情報の提供は、行政にとっても重要な事業であるので、協働事業にも相応しいものといえる。一方で、成果が非常に見づらいものであることも確かなので、市民に対する啓発活動としてどの程度効果があったのか、可視化できるようなしくみが欲しいところ。
- ・この様な事業は継続性が大切である。
- ・地震だけではなく水害の事も考えて欲しい。
- ・夏休みにイベントをするともっと参加者が増えると思います。
- ・11月～1月の放送の内容を充実させてほしい。公開は良い。宣伝も必要。チラシを配る→親子連れが増えた。
- ・今回の知見をもとに“防災意識”の高揚に向けて更なる成果が得られる事を期待します。

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災
--------	-------------------

【事業に関するコメント】

- ラジオの公開収録、親子をターゲットに500名以上の参加は素晴らしい。
- チラシを学校に配布は行政との協働ならではの利点。
- 地域密着FMコミュニティラジオとしてその存在をPRして行ってほしい。
- 災害時のみ、自活対応なども必要になってくるのでは。
- 防災意識の向上を図り、ラジオの情報の取得等について様々な方々と協力して活動が続けていただきたい。
- ラジオ（アプリ）活用での防災取り組みはまだ試行錯誤状態だと感じます。今後も継続して行い、効果や精度を高めていく事を期待します。
- 繰り返し周知することが大切なテーマなので、行政の担当課とともに継続してほしいです。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化スポーツ部文化芸術振興課	令和4年度
記入団体名	川越音楽文化振興会川越市民舞台芸術プロジェクト	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	川越市民オペラ「喜歌劇こうもり」コンサート事業		
協働事業の概要	ヨハン・シュトラウス2世作曲、オペラ「喜歌劇こうもり」の曲目を抜粋で、指揮者の解説を交えて演奏し、オペラの楽しさを紹介する。 指揮者、演出には東京芸術大学などで教鞭をとり、プロによる演奏会でも活躍している方をお呼びし、参加者には本格的なオペラの指導を受けられるようにする。 日時：令和4年9月4日(日)14:00開演 場所：ウェスタ川越 小ホール 入場料：1,000円 公演時間：1時間40分（休憩10分） 演奏者：オーケストラ・合唱一般公募		
協働事業の決算額	507,110円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和4年3月27日（練習開始）～ 令和4年9月4日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平 均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

本事業は、協働型提案事業補助金を利用することで、より高い効果を得られたと感じています。補助金を使うことで入場料を低額に抑え、団体と市がそれぞれ広報を行うことでより幅広く多くの方に来場していただくことが出来ました。

文化振興という点について、普段なじみの少ないオペラ公演を、安価かつわかりやすい解説付きで行うことは、オペラを知ってもらう機会につながります。このような、初めての人に向けた公演は意外と少なく、とても有意義なものであると考えます。

また、団体は、川越市で初の市民オペラを開催するというを目的に、非常に高い自主性・意欲を持ち活動しており、このような市民団体と提案型協働事業を通して関わることができ、私個人としてもとても良い経験となりました。来年度に行われる本公演についても、とても楽しみにしております。

【市民活動団体等】

川越市で初の市民オペラ開催のための第一歩として、川越市との協働で、小編成ではありましたが、解説付きのオペラ公演事業が実施できた意義は大きいと感じています。

補助金をいただくことで、入場料を低額に抑えることができ、多くの方に気軽に音楽文化に触れる機会を提供できました。

アンケートから、演奏参加者からや来場して下さったお客様から「大変良かった」との評価を多くいただき、今後の励みにもなりました。

また、川越市長様には、公演を最初から最後までご観覧いただき、大変ありがたく思っており、参加者は大変喜んでおりました。これも今後の励みになりました。

来年、令和5年9月17日には、ウェスタ川越大ホールにて「川越市民オペラ 喜歌劇「こうもり」」の本公演を予定しております。本公演にもぜひお越しいただきたいと思っております。

川越の文化振興のため、総合芸術であるオペラの本格的な公演に向け、大きな成果を上げることができました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	6	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。
B	4	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。
C	0	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。
		A

【事業に関するコメント】

- ・地域オペラ楽しい。もっと盛んに。
- ・「レクチャーコンサート」という形式をとったことが良かったのでは。音楽文化の裾野を広げるという意味で、一定の成果があったと、ある程度は評価できる。惜しむらくは、もう少し入場者数を増やせなかったか。
- ・オペラはなかなか鑑賞する機会が少なく、また分かりにくい点多い中、序章というべき、今回の協働事業であったと思われます。今年9月17日の公演を楽しみにしています。
- ・目的、目標、手段がしっかりしている。参加者の満足度が高い。来年も続けて欲しい。9/17本公演を見てみたいです。
- ・評価3番なぜ市は評価が3なのか。

協働事業名称 川越市民オペラ「喜歌劇こうもり」コンサート事業会

【事業に関するコメント】

- ・当初の目的（来年度開催予定の本格的な市民オペラの本公演に足を運んでいただくきっかけ作りをするため、解説つきオペラ公演の実施）を十二分に発揮できた事は喜ばしいことです。
- ・「総合芸術」といわれる「オペラ」が一般市民にはなじみが薄いものです。今回の事業成果を踏まえ、本格的なオペラ公演が成功裡に終わる事を期待します。
- ・コロナ禍の中で工夫して解説付きのオペラ初心者向けのレクチャーコンサート、低額料金で、日本語で開催し、素晴らしい取り組みだった。
- ・オペラを身近に感じるきっかけになったと思う。
- ・チラシも高校生が作成しているなど工夫があり、文化芸術への熱意を感じる。
- ・普段なじみの少ないオペラ公演を安価かつわかりやすい解説付きで行うことはオペラを知ってもらう機会につながりとても有意義なものであると考えます。
- ・団体は川越市で初の市民オペラを開催する事を目的に、非常に高い自主性、意欲を持ち活動されており、多くの方に気軽に音楽文化に触れる機会を提供していただきました。市民の方々も「大変よかった」との声、次回を楽しみにしているとの声もありました。
- ・令和5年9月17日には、ウェスタ川越大ホールで川越市民オペラ喜歌劇「こうもり」が予定されています。今から心待ちにしている人が多く楽しみにしています。
- ・文化芸術事業として、協働事業にふさわしいイベントになったと思います。今後も市民にとって手頃でとっつき易い企画をお願いします。
- ・文化振興のプロジェクトとして良い事業だと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	教育総務部中央公民館・環境部環境政策課	令和4年度
記入団体名	川越次世代SDGs研究会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	夜の公園たんけんー川越の生き物発見事業		
協働事業の概要	<p>【7月30日】ユニクス川越前広場にて、大学生がクイズや塗り絵で遊ぼう「川越の生き物たんけんコーナー」を実施。南公民館でレクチャーを行った上で、仙波河岸史跡公園にてコウモリとセミ羽化について、小学生と大学生と一緒に観察した。</p> <p>【9月24日】参加した大学生による報告会をリモートで実施した。</p> <p>【10月11日】新宿小学校にて環境政策課の職員に川越の自然の現状について説明していただいた。</p>		
協働事業の決算額	215,852円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	107,000 円
事業の実施期間	令和4年6月2日～令和4年10月11日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	3	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	3	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	3	3
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	3	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	3	4

合計点数	26 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

(中央公民館)

ユニクス川越前広場にてブースを設置してのイベントは、たくさんの方のご参加をいただくことができました。

また、講座の方は、事前の座学により基礎知識を得た後に公園に行き、実際にこうもりが飛んでいるところを観察し、こうもり探知機でこうもりが超音波を検出することができました。

さらに、セミの幼虫が土から這い出て、羽化をするところも実際に観察することができました。

事前に座学による生き物に関する講演を聞いたうえ、夜の公園で生き物を実際に観察するという講座を中心とした複数のイベントを実施するものであり、専門の知識を有したうえでの効果的な企画であることから、事業としては大変高度なものであったといえます。

生き物の生息や生育空間となる自然の保全に触れる良い機会となる市民参加型の体験学習ができました。

講座にご参加いただいたお子様や保護者の皆様には大変印象深い内容であったと思われま

(環境政策課)

実施日が夏休み中ということもあり、たくさんのご家族にご参加いただき、夏休みの宿題の題材に活用していただけたのかなと思います。

普段何気なく利用していた公園でしたが、セミが羽化し、つばめやコウモリが飛び、水辺にはハンノキなど湿地を好む植物があるなど、街中にありながら豊かな自然がある公園であることを再認識しました。

【市民活動団体等】

今回に限ったことではありませんが、限られたリソースで最大の効果を上げるのは難しいと感じます。

また若い世代の主体的な取り組みを促すことが必要ですが、インセンティブがないと大学生は参加しません。また、本庁地区管内以外は交通の便が悪く大学生の参加は見込めません。

今後学びの裾野を広げるためには、学校教育や社会教育との連携を一層強化し、既存事業の活用などを検討することが課題です。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・まさに今、大人たちが大きな興味を持つのと同様に、小中学生世代でも同じく、自分たちの社会や自分たちの立場で考える良い機会である。

・自身の課題を明確に認識できているようで、その点は前向きに考えたい。その上で、参加者・ボランティアを集める方策については、それぞれ行政との協働により解決できるもののように思われるので、より行政との連携を深めていただければと思う。

【事業に関するコメント】

- 事業全体の評価で行政が5、団体は3となっていますが、団体の3の意味を詳しく聞きたい。
- 大学生の案内役は良い考えだ。参加する方法を考えてほしい。
- 動物、自然が相手なので難しい部分もある。でも取り組んでほしい。
- 団体が記述しているように課題が数多あるように思います。これらの課題克服の展望を確認してから進めることが肝要と思います。
- 実施団体の専門性や企画のユニークさが輝る事業であった。
- 若者、大学生の参加を見込むためのインセンティブを行政は知恵を絞ってほしい。
- 既存事業とのコラボ、教育委員会、学校とのコラボを検討してはいかがかと。
- コウモリの超音波を計る企画はまた開催してほしい。ユニークなものであった。
- 「川越の生き物たいけんコーナー」の実施で仙波河岸史跡公園でコウモリとセミの羽化について小学生と大学生で観察。中々見る機会が少ないなかとても良い経験だったと思います。
- 都会と異なり、自然が近くにある川越で子供たちが生き物の生態に触れるこの取り組みは良かったと思う。また学生と子どもの交流という事も新しい着眼だと感じました。
- 今回初めての取り組みであり、また自然相手の観察会で難しさもあった様ですが、継続と回数増を期待したい。その為に行政はもっとバックアップして欲しいと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部地域づくり推進課	令和4年度
記入団体名	新宿町五丁目自治会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--------------------------------------------------------------------

協働事業名称	新宿町五丁目地域デジタル化		
協働事業の概要	新宿町五丁目内のICT化を図る目的で、複数年かけて、身近で必要なところから改革に取り組みます。自治会内にデジタル化特別委員会を置き、お知らせや回覧物等のデジタル配信、町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練、デジタル化状況調査と操作説明会を実施します。		
協働事業の決算額	272,772円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	129,000円
事業の実施期間	令和4年4月7日 ~ 令和5年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑤

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	31 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回の事業については自治会広報についての先進的な取り組み事例として協働事業として行いました。

主に団体側が企画実行し、市側が情報提供や広報等を行う形で事業を実施してきました。互いに話をする機会を多く設け、信頼関係を築いて事業を実施できました。

今年度は様々なSNSを開設したり、デジタル化の環境を整えることに重きを置いていますが、来年度以降事業の効果等を見ながら市としても協力していきたいと考えています。

【市民活動団体等】

地域デジタル化を自治会発案による事業として受け入れ協力していただき、非常にありがたかったです。

初年度は概ね計画通り遂行しましたが、一方で新たな課題も見えてきました。次年度は初年度の継続と、通信環境とデジタル機器操作説明会について取り組んでいきます。

所轄課には事業を支援いただき、情報提供や地域への好事例紹介等を期待します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	6	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 A
B	4	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・地域が一丸となって取り組んでいること自体評価できる。
- ・行政の役割が見えづらいところもあるが、自治会としての活動であるから、これくらいの関係がちょうどよいのかもしれないと感じている。
- ・自治会でデジタル化が進んでいけば、自治会そのものも変わるかもしれない。
- ・デジタル機器を持っていない人への対応はどうか。
- ・自治会はデジタル化も必要ですが、コミュニティを保つには対面である。
- ・少しでも参加しやすい方法を考えてください。他の地域を見習うべき所が沢山あります。
- ・今年度成果を踏まえ、次年度はデジタル化の利用状況の確認や新たな自治会活動の提案に結びつくヒントが得られると更なる展望がみえてくると思います。

協働事業名称 新宿町五丁目地域デジタル化

【事業に関するコメント】

- 素晴らしい活動です。デジタル機器を持たない、持てない人への対応も心掛けてほしいと思う。
- 丁寧にアンケートを取られていて好感が持てる。
- 広報誌も読んでいて楽しい工夫がしてある。
- 町内会全部をアップデートするエネルギーがすばらしい。他の自治会への波及効果を望みます。
- 新宿五丁目地域デジタル化の環境を整えることに重きを置いての活動をされ、次年も続けて活動されるよう期待しています。
- 複数年度を見通しての事業と理解しており、最終の成果が楽しみです。
- 自治会単位で実現出来れば、先駆事例となり、他自治体への影響が大であり期待しています。
- 街に対する注目度もあがると当プロジェクトがより活性化するという効果が出ているのではないかと思います。
- モデルとしてより成長することを期待しています。